

女性プロジェクトチームで 新商品を開発

三重化学工業株式会社

女性特有の体の悩みを緩和する 「フェムテック」に取り組み製品を開発

女性社員6人で 「フェムテック」に注目

女性が生理や産前産後、更年期に体調不良を訴えることは珍しくない。こうした女性特有の辛さを和らげるための「フェムテック」と呼ばれる製品が増えて

いる。アイス枕や持ち帰り用の小型保冷剤などを幅広く手がけている三重化学工業(株)は、昨年5月に冷温兼用のジェルパック「ルーイ (ラルル)」を発売した。体に当てて生理痛などを緩

和するフェムテック商品だ。

これらを開発した女性プロジェクトチームは事務、営業、生産部門の社員合わせて6人で、2021年9月から月1回のペースで集まった。そこにコーディネーターとして参加した営業部兼企画開発室課長の宮下祐介氏は「保冷剤を日本で最初に作った会社として、商品開発は常に考えています。でもこうした社内プロジェクトは初めてで、最初は皆、なんで私がこんなことをするのだろうという雰囲気

新商品の開発は、顧客のニーズを知ることから始まる。と言ってもよい。ターゲットが女性ならば、社内の女性視点は貴重なものだ。女性のプロジェクトチームによるミーティングではフランクな雰囲気の中、当事者ならではの意見が活発に出され、商品づくりに活かされる。女性のプロジェクトチームによって、それまでになかった商品を開発した2社の事例を紹介する。

振り返る。

同社は20年前に医療分野に参入し、熱中症対策や突き指用に「冷やす」商品などを大病院やクリニックと共同開発してきた。

「ある時、産婦人科の看護師さんから、出産時に会陰切開した後、ピンポイントで冷やせるものができないかと相談されました。それがたまたま女性によるプロジェクトをやるかと社長から声がかかったタイミングでした」

やがてプロジェクトチームの女性たちも少しずつ話をするようになり、フェムテックとはどういうことか自分で調べるメンバーも出てきた。そして、同社の技術やノウハウで何ができ

のか。まずは社内アンケートを取ることに始めた。

社員65人のうち40人ほどの女性に尋ねると、生理の時、お腹や腰が痛いという回答が4分の3を占め、また、全体の3分



宮下祐介営業部兼企画開発室課長(中央)と女性プロジェクトチーム。「男性にはわからないテーマなので、私は裏方に徹して相談相手となるようにしました」

の1が薬を飲んで我慢しているという。頭痛や肌荒れ、眠気やだるさを訴える声も多かったが、生理休暇を取得している人はゼロだった。その後行った社外の女性へのアンケートの結果も同様だった。

女性目線でのアイデアが 出つくさなくなった

これまで女性が我慢してきた体のことを、我慢しなくてもいいようにするにはどうしたらよいか。さまざまなアイデアが出てくるようになった。

温めたい時もあれば冷やしたい時もあるから、両方できる商品にしたい。忙しい時には電子レンジで温めればお湯を沸かさなくても済む。だが電子レンジ

など食品を入れるところに陰部に当てるものを置くのは抵抗がある。それなら布の袋をセットにしてその中に入れたらどうか。パッケージも、性につながるイメージがあると若い人が店頭で手に取りにくい。形状が複雑なため、一般的な保冷剤より価格は高くなる。それでも彼氏や夫がプレゼントできる範囲に収めたい。

こうした女性の意見を集約して商品企画が固まり、試作品の社内プレゼンテーションを行った。最初は社長をはじめ男性社員からは「難しいのでは?」という反応だった。「それでも彼女たちの強い思いや考えを尊重し、商品化をしました。女性に向けたプロジェクトとして男性視点を入れてしまうと意味がなくなると考えたからです」(宮下課長)「ルーイ」ブランドは、フェ



ブランド名「Lulle」は風という意味の「Lull」から。心身ともに穏やかであってほしいという思いを込めた。「首やお腹、背中など広い範囲をカバーできる「鈴蘭 5連結」、小型で偏頭痛の時に耳の後ろを温めたりする「向日葵 まめ型」、産後の会陰切開や痔の痛みを抑えるのにピンポイントで使う「桔梗 陰部用」などがある。



「鈴蘭」の着用例

Mテックや美容関連のECサイトを中心に販売するほか、イオン系の株式会社メガスポーツなどが店頭でも扱う。評判を聞いてわざ

わざ来社したり、女性職員のためにまとめ買いしたりする医療法人もある。だがフェムテックに本当に火がつくのはこれからだと宮下課長は感じている。「営業に行くと、どうやって売ればよいかとか、時期尚早ではと言われることもあり、男性や女性でも生理痛がない人にはピンとこないようです。どんな展開をしたらいいかを考えながら提案活動をしています」

医療施設からは「ルーイ」を横展開したいという要望があり、新たなジェル商品のプロジェクトもいくつかスタートした。女性プロジェクトチームは、今後も必要に応じて集まることにしている。

「社長の狙いは、ふだん関わりがなかった社員が顔を合わせて意見を交わしたり、自ら会社のことを考えたりすることに思ったと思います。今回、女性社員たちが当事者目線でモノづくりしたことに大きな意義がありました」

女性プロジェクトの活動は、商品開発だけでなく社内の活性化にもつながっているようだ。

Corporate Profile

設立 1956年
代表者 山川大輔
所在地 三重県松阪市大口町255-1
資本金 2,300万円
従業員数 65人
売上高 17億円(23年10月期)
事業内容 保冷剤および保温剤、医療機器、作業用手袋などの企画製造



「からだケアEXPO【大阪】'22」でのひとコマ。「フェムテック東京」など各種展示会にも出展している



性の印象を感じさせないパッケージづくりを検討している